町長室からこんにちは No.28

一宮町長
馬淵 昌也

秋も大分と本格的になってきました。わたくしは、秋になると、虫の声がよく聞こえることに驚きます。上総一ノ宮駅の周囲では、夕暮れになるとスズムシが「リーンリーン」と鳴いています。一宮川沿いの土手では、「チッチリリ、チッチリリ（チンチロリン）」とマツムシが鳴いています。また昼間には、夏から、さくら通り沿いの草むらなどで、キリギリスが「ギイーッチョ、ギイーッチョ」とうるさいくらいです。

こうした虫は、わたくしが育った神奈川県の戸塚には、いませんでした。もちろん、コオロギやウマオイなどはいましたが、先に挙げたような虫は聞いたことがありませんでした。ですので、中学以降、日本の古典を学ぶと、こうした虫のことがよく出て来ましたが、いまひとつ実感が伴いませんでした。スズムシは飼育例も多いので、聞く機会もありましたが、マツムシは長らく聞いたことがありませんでした。ところが、一宮町では、至る所でスズムシもマツムシも聞けるし、自宅の庭でも自然に鳴いています。

おとなりの長生村岩沼には、虫供養碑が建てられているそうです。これは、江戸時代から大正年間まで、この地域で鳴く虫を捕えて、江戸（東京）まで売りに行っている者が大勢あったことを背景にするものだそうです。鳴く虫捕りと繁殖は、この地域の一大産業であったというのです。昭和初年の鉄道の上り一番列車は、虫売りの人たちで賑わい、車内で虫が盛んに鳴いていたそうです。

一宮では、ほかにも、戸塚ではみたこともない昆虫を見ることができます。たとえば、ツチハンミョウやオツネントンボなど、図鑑で見るだけの虫でしたが、わたくしの家の庭で見つけました。ツチハンミョウは青光りした虫で、地面を歩く不気味な有毒の甲虫、オツネントンボは冬を越すトンボです。4年前の夏には、庭で「カシャカシャカシャ」というクツワムシの声も聞きました。一宮でも、あまり聞くことはできない虫です。

鳴く虫をはじめ、昆虫相の豊かなことは、一宮とこの地方の自然の豊かさを示すものです。10月ともなると、種類も減ってきますが、秋の夕べ、皆様も鳴く虫の声に耳を傾けて、一宮の自然の豊かさを再度実感して頂ければと存じます。